

# 大和公民館だより

発行者 大和公民館

〒409-1203 甲州市大和町初鹿野 1693-1

館長(石田) ■■■■■ 主事(三枝) ■■■■■

## \*\*\*\*\* ゴールデンウィーク \*\*\*\*\*

5月になりましたが初夏を思わせるような暑い日が続きますが、いよいよゴールデンウィークです。今年は4月29日から5月7日まで9連休の方もいるようです。家族や友人と出かける機会が多くなると思いますが、特に車でお出かけの方は交通事故には十分注意し楽しい休日を過ごして下さい。



## 笹子峠の西の麓の伝説・民話

### 心中横手 (しんじゅよこて)

今から二百五十年ほど前、京都の公卿のお姫さまと寺との若いお坊さんが、茶会の際見<sup>も</sup>添<sup>も</sup>合<sup>い</sup>い恋仲となり逢<sup>は</sup>瀬<sup>を</sup>を楽しんでいた。ところが、この事が露見して若いお坊さんは破門となり、お姫さんは監視が厳しく逢うことが出来ず悩みの日が続いた。

ところが粹なお女中の計らいで逢うことが出来た。このままでは到底二人は結ばれないと思い、いっそのこと二人で手を取り合い江戸に向かって恋の逃避行となった。

東海道を江戸に向かったが、箱根の関所は厳重で通れないと考え、道を変えることにした。富士川を舟で鰍沢に着き、それから甲州街道に出て江戸に向かった。途中、鶴瀬の関所も無事に通り駒飼宿に一泊して笹子峠へ向かって旅立った。喘ぎながら登り、清水橋近くで一息ついていると万事休す。追手がやって来て姫はつかまり連れ戻されそうになった。姫は隙をみて若いお坊さんの所に行き、いっそのこと死んであの世で一緒になろうと懐<sup>かいけん</sup>剣を抜き、お互い胸を突き抱き合ったままこと切れた。折から紅葉がハラハラと降りかかった悲恋の物語。